

# Hirata

The Global Production Engineering Company

## 2016年3月期 決算説明資料

2016.5.25

### 平田機工株式会社



# I 決算状況

2016年3月期 (2016年5月12日)

**Hirata**

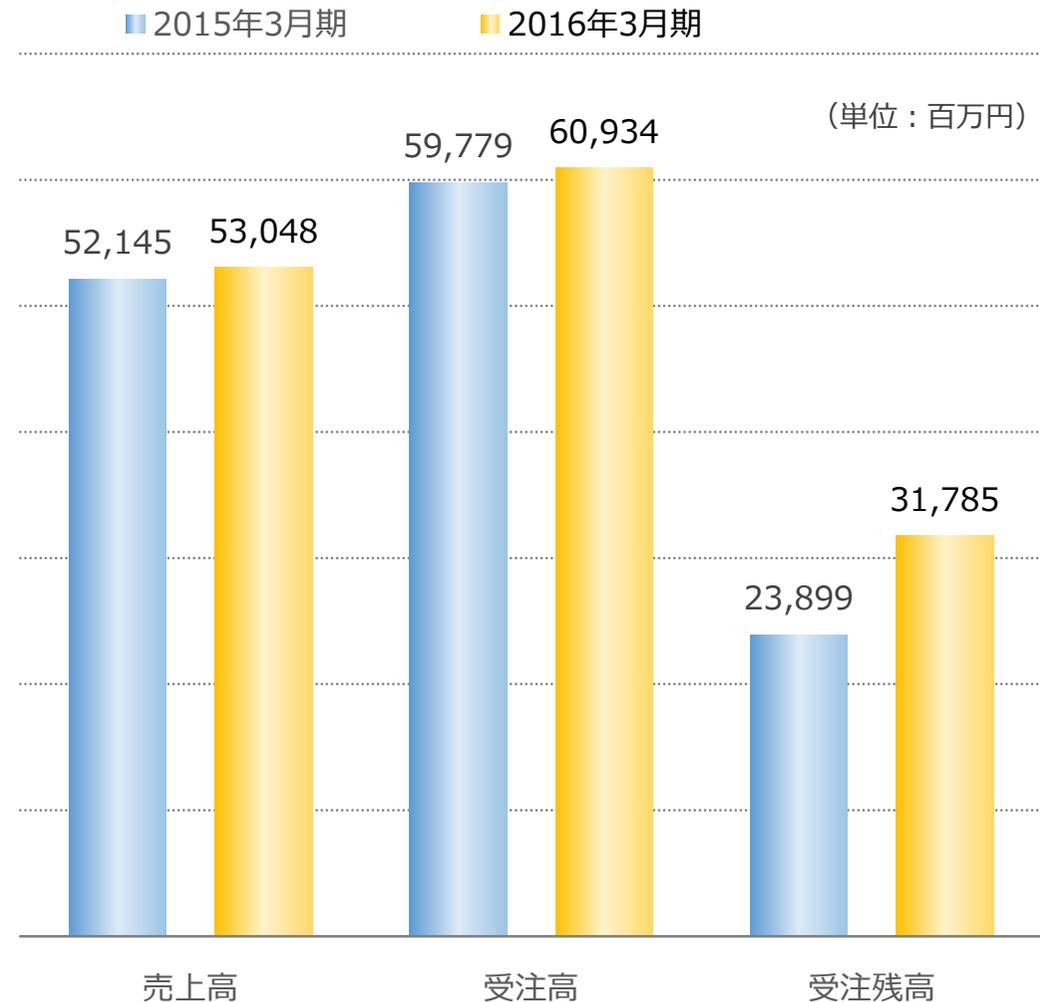


## 決算概要

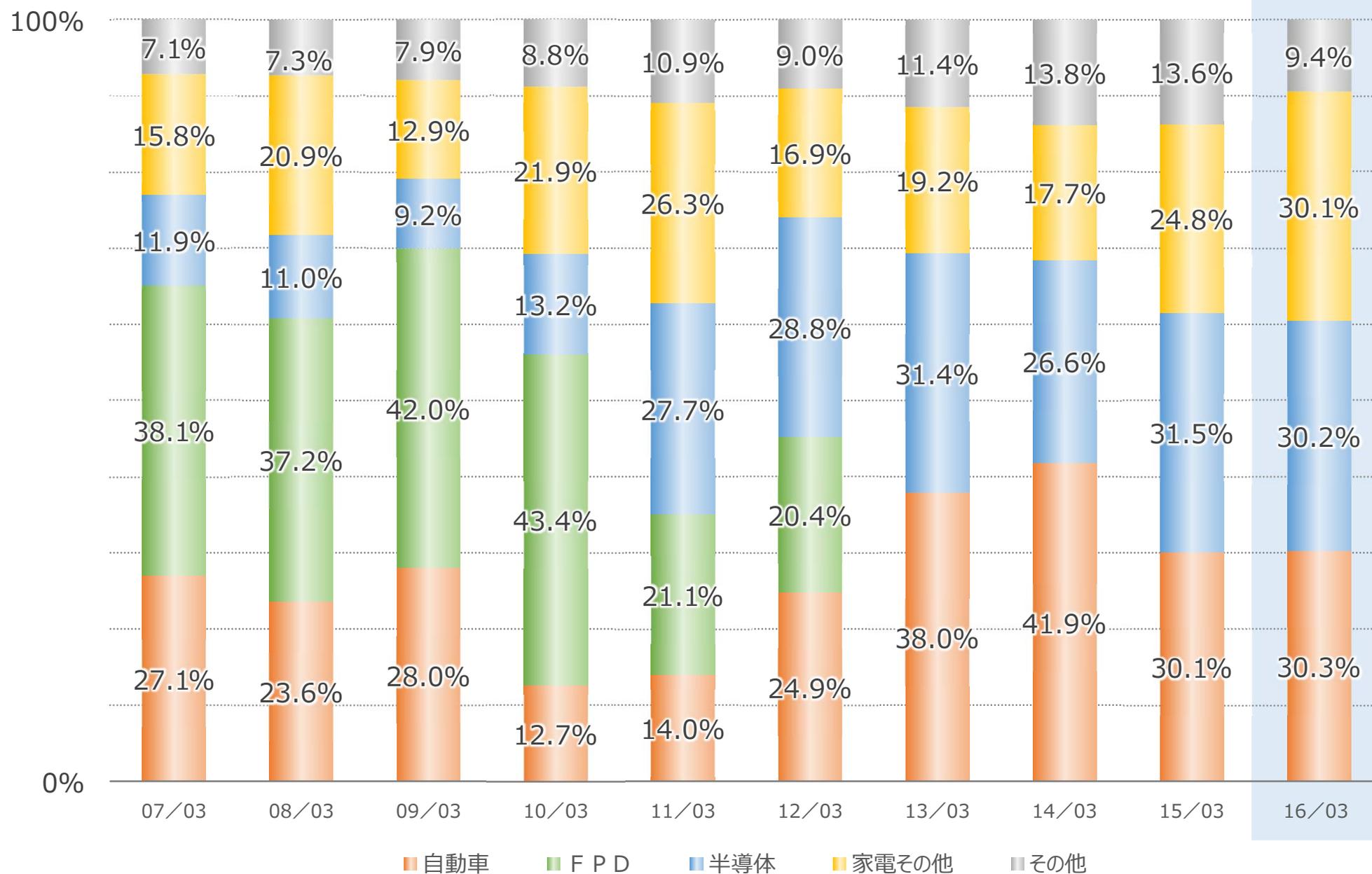
過去最高の売上高を記録し、3期連続の増収増益。各事業部門共に堅調で、自動車関連は、北米市場向けのパワートレイン関連設備や、国内自動車部品メーカー向け設備、半導体関連は、ウェーハ搬送設備、有機EL関連の生産設備、家電関連およびその他は、タイヤ関連設備、掃除機関連設備などが業績に寄与。受注高、受注残高も前期を上回る水準となる。

(単位：百万円)

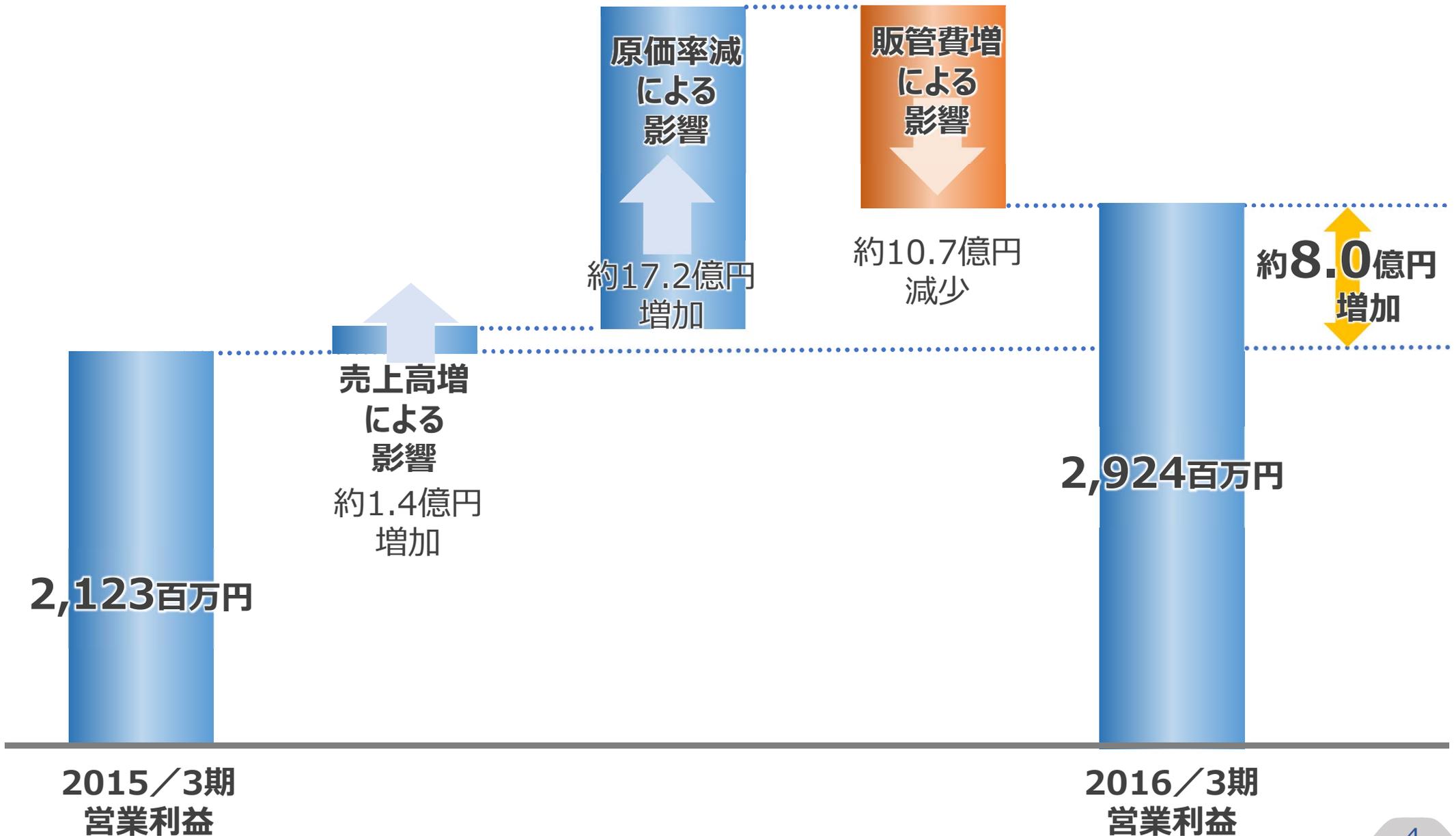
	2015年3月期 実績	2016年3月期 実績	増減率
売上高	52,145	<b>53,048</b>	+1.7%
営業利益	2,123	<b>2,924</b>	+37.8%
経常利益	1,962	<b>2,825</b>	+44.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	946	<b>1,713</b>	+81.0%



# I 決算状況 事業部門別売上高構成比推移



※2013年3月期より、FPD関連事業は半導体関連事業に統合



## 貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2015年3月期	2016年3月期	増減	負債	2015年3月期	2016年3月期	増減
流動資産	42,033	40,758	△1,275	流動負債	28,351	30,592	2,240
固定資産	19,764	18,923	△841	固定負債	11,582	7,504	△4,077
有形固定資産	15,705	15,653	△52	負債合計	39,933	38,097	△1,836
無形固定資産	432	398	△34	純資産			
投資その他資産	3,627	2,872	△754	純資産合計	21,864	21,584	△280
資産合計	61,798	59,681	△2,117	自己資本比率	34.9%	35.6%	+0.7pt

### 主な増減項目

#### 資産

現金及び預金	△1,757
受取手形及び売掛金	△2,917
たな卸資産	+3,168

#### 負債・純資産

支払手形及び買掛金	△518
有利子負債	△2,596
利益剰余金	+1,555

## 想定為替レート

(単位：円)

	2015年4月1日～3月31日 実績レート	2016年4月1日～ 想定レート
為替レート (対US \$)	115.19	<b>107.00</b>

## 株価推移

(単位：円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
最高	1,050	917	<b>3,100</b>
最低	451	560	<b>782</b>
末日	658	799	<b>2,752</b>

## PER/PBR/ROE

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
PER (倍)	8.14	8.76	<b>16.08</b>
PBR (倍)	0.36	0.39	<b>1.22</b>
ROE (%)	4.5	4.7	<b>8.0</b>

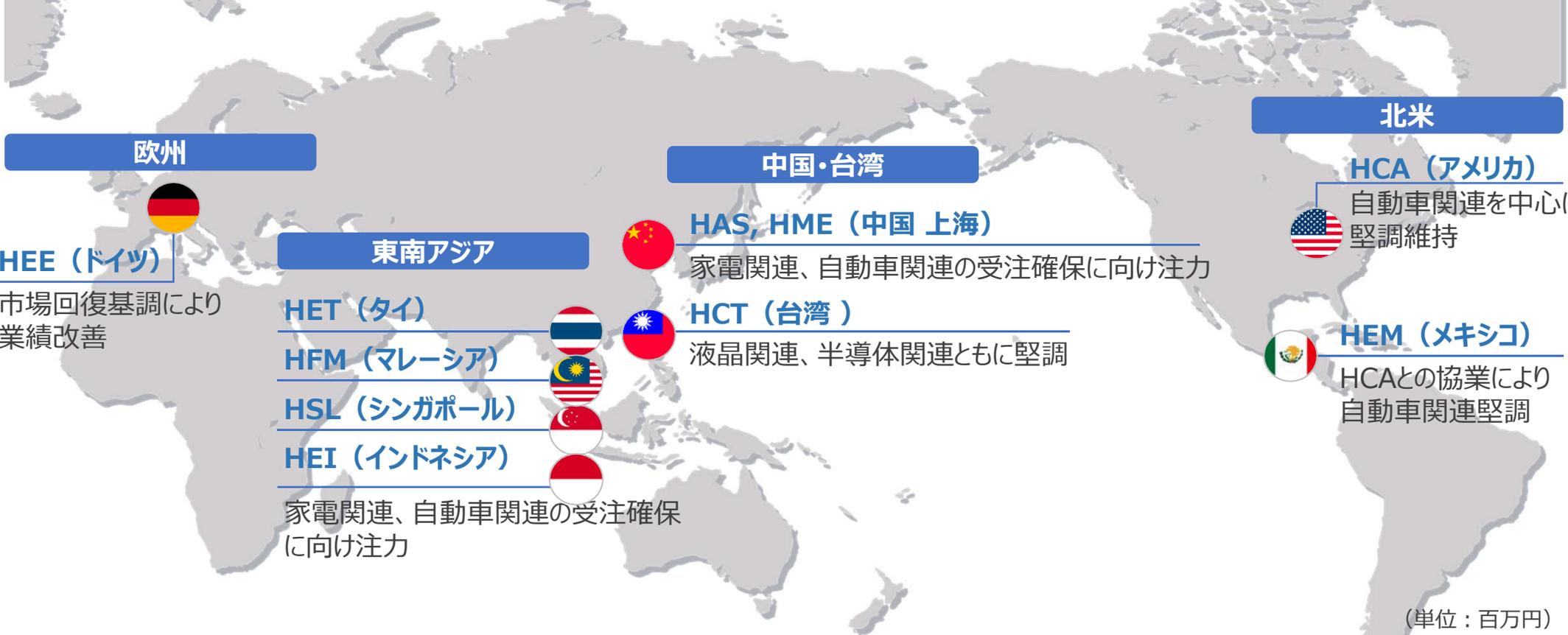
# I 決算状況 事業部門別売上高・受注高・受注残高

(単位：百万円)

	事業部門	2015年3月期	2016年3月期	対前年同期比 増減率
売上高	自動車	15,713	<b>16,065</b>	+2.2%
	半導体	16,402	<b>16,014</b>	△2.4%
	家電関連およびその他	12,916	<b>16,000</b>	+23.9%
	その他	7,113	<b>4,968</b>	△30.2%
	合計	52,145	<b>53,048</b>	+1.7%
受注高	自動車	19,373	<b>21,428</b>	+10.6%
	半導体	15,889	<b>21,153</b>	+33.1%
	家電関連およびその他	17,925	<b>13,717</b>	△23.5%
	その他	6,590	<b>4,634</b>	△29.7%
	合計	59,779	<b>60,934</b>	+1.9%
受注残高	自動車	9,803	<b>15,166</b>	+54.7%
	半導体	3,673	<b>8,813</b>	+139.9%
	家電関連およびその他	9,171	<b>6,888</b>	△24.9%
	その他	1,250	<b>916</b>	△26.7%
	合計	23,899	<b>31,785</b>	+33.0%

# I 決算状況 海外現地法人の状況

## 所在地別売上高



	日本		アジア		北米		欧州		合計	
	15/3	<b>16/3</b>	15/3	<b>16/3</b>	15/3	<b>16/3</b>	15/3	<b>16/3</b>	15/3	<b>16/3</b>
売上高	41,137	<b>42,306</b>	7,281	<b>6,236</b>	3,240	<b>3,581</b>	485	<b>924</b>	52,145	<b>53,048</b>
営業利益	1,612	<b>2,662</b>	161	<b>112</b>	327	<b>164</b>	2	<b>44</b>	2,104	<b>2,983</b>

※営業利益の合計は、セグメント間の消去を行う前の金額を表示しています。

## 熊本震災の影響

### ●2016年4月14日、16日の震災により熊本地区の各工場で小規模の被害を確認。生産活動に大きな影響はなし。

熊本地震により被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、当社にも多数のご支援や暖かい励ましのお言葉をいただき、ご厚情に深く感謝いたします。

当社は社員1名を喪うという痛恨の事態に直面いたしましたが、物的な被害につきましては、工場内の壁、天井などの一部剥落、部品加工機の一部で調整作業を要するなどの影響はあったものの、幸いながら現在は問題なく生産活動を継続しております。懸案であった物流面につきましても、交通網の早期復旧により円滑に機能しております。



書庫内で倒れたファイル棚



加工機の上で傾いた加工品取付用の治具

## ■ 本社移転

- 2016年5月12日開催の取締役会において、本社移転に関する「定款一部変更の件」を2016年6月23日開催予定の第65回定時株主総会に付議することを決議。

現在、東京都品川区に置いている本社を、熊本県熊本市の現在の本部ビルに移転するための議案提出です。

当社は事業拡大およびグローバルな展開ならびに情報収集などを目的として、昭和56年に本社を東京に移転しました。それ以降、世界中の企業との取引が可能となり知名度も向上しており、その目的は達成できたと考えております。ただ、この間も、技術・生産の本拠地は熊本市であり、本社機能の主要部分も熊本市にあります。今後は本社を熊本市に移転することで業務効率の向上を図ってまいります。

～ 熊本で生まれ熊本で育った平田機工は熊本と共に生きていきます ～



現在の本社：東京都品川区戸越



移転予定先：熊本県熊本市北区植木町

## 有機EL関連工場増設

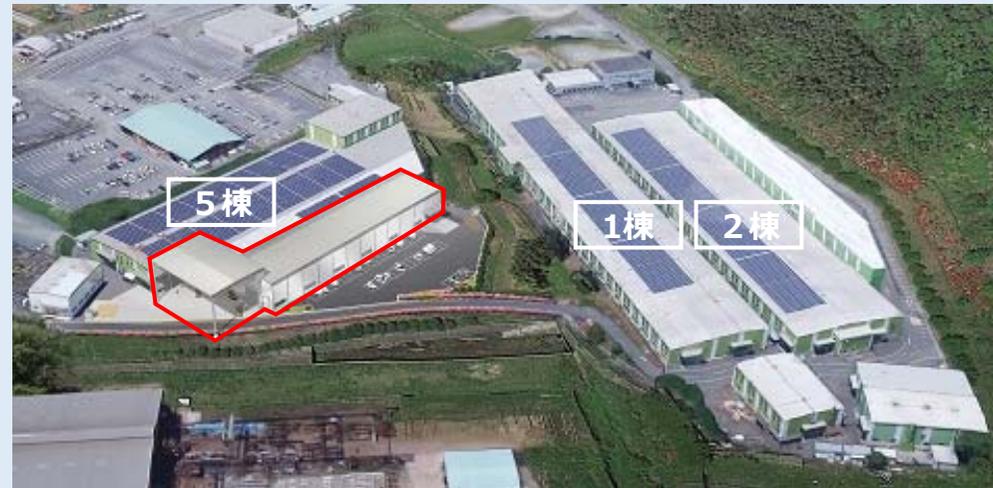
### ●急増する有機EL関連設備事業に対応するため、工場を増設予定。

有機EL関連設備事業の受注量拡大に対応するために、熊本東工場（熊本市北区植木町）を増設し、クリーンルームなどの生産スペースを拡張します。増築面積は、約2,570平方メートルで、竣工は当初予定どおり2016年10月末。工事について震災の影響はありません。費用は約7億円を見込んでおります。



工場増設予定地：熊本市北区植木町（赤枠部分）

地図データ ©2016 ZENRIN 画像 ©2016, CNES / Astrium, Digital Earth Technology, DigitalGlobe



完成予想図

（赤枠部分）

### ●有機EL関連事業について

当社は、九州大学応用化学部門の安達教授と共同で有機EL製造装置の研究開発も行っています。内閣府が進めている最先端研究開発支援プログラム（FIRSTプログラム）の中でも、安達教授の有機ELに関する研究は、内閣府が特に注力しているもので、当社の技術力はその研究に重要な役割を担っています。

当社には、有機EL生産設備の基板洗浄からウェットエッチング、塗布、真空薄膜プロセス等の各工程を構成する様々な装置を生産する技術力があります。

## Ⅱ 市場動向および 2017年3月期業績の見通し

2016年3月期（2016年5月12日）

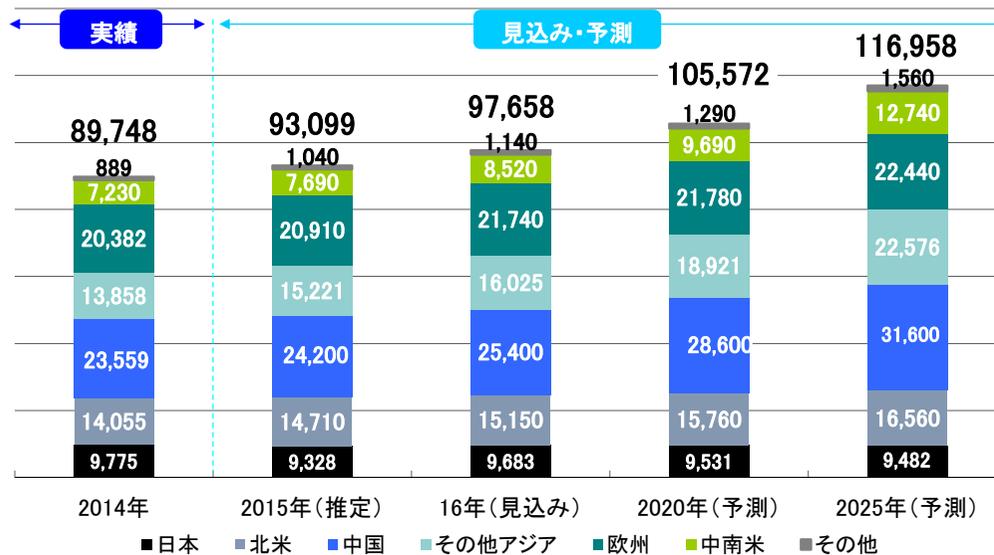
**Hirata**



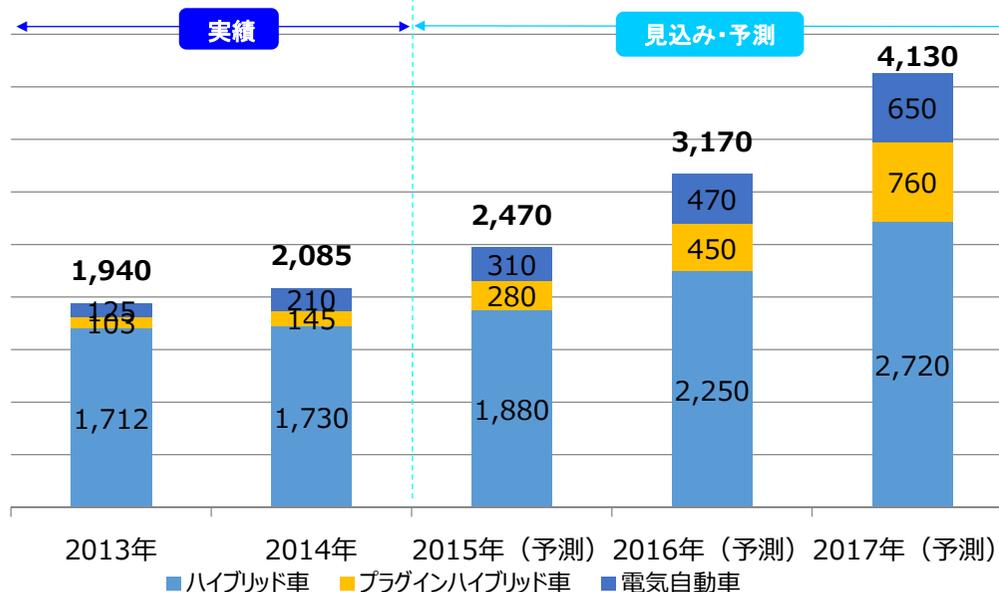
## II 市場動向および2017年3月期業績の見通し

### 地域別自動車生産台数予測

(単位：千台)



### 電気自動車など環境対応車予測事情規模予測



### 自動車関連市場

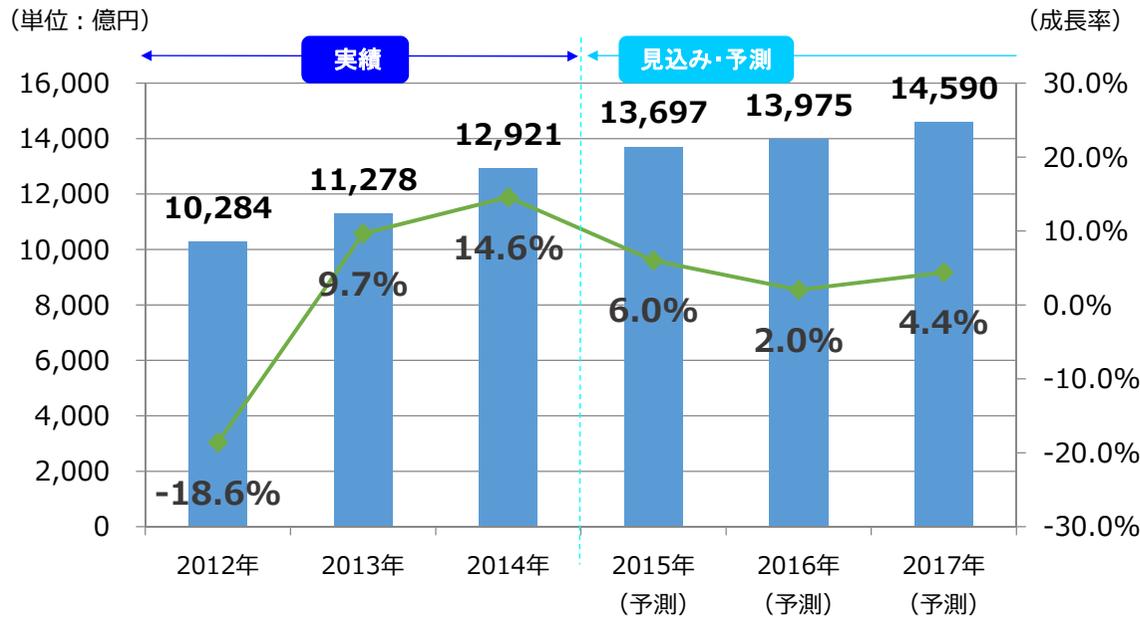
- 2016年以降  
生産台数は増加する見込み。  
ハイブリッド車や電気自動車などの、地球環境に配慮した燃料効率の高い、次世代の自動車への移行がさらに進むと予測。  
今後、米国での金利の引き上げや日本国内における消費税増税など需要の下押し要因も存在するが、アジア地域などの新興国での自動車販売が需要拡大を牽引する見込み。

- 当社の見込み  
北米メーカーのパワートレインをおよび日本国内の部品メーカーなどを中心に好調を維持する見込み。

出所 上段グラフ：調査会社S社資料  
下段グラフ：2016年度版 主要デジタル機器、関連デバイス及び自動車関連機器の中長期的な市場分析 ～需要・生産・コストの現状分析と中長期予測～  
イーエムデータサービス株式会社

## Ⅱ 市場動向および2017年3月期業績の見通し

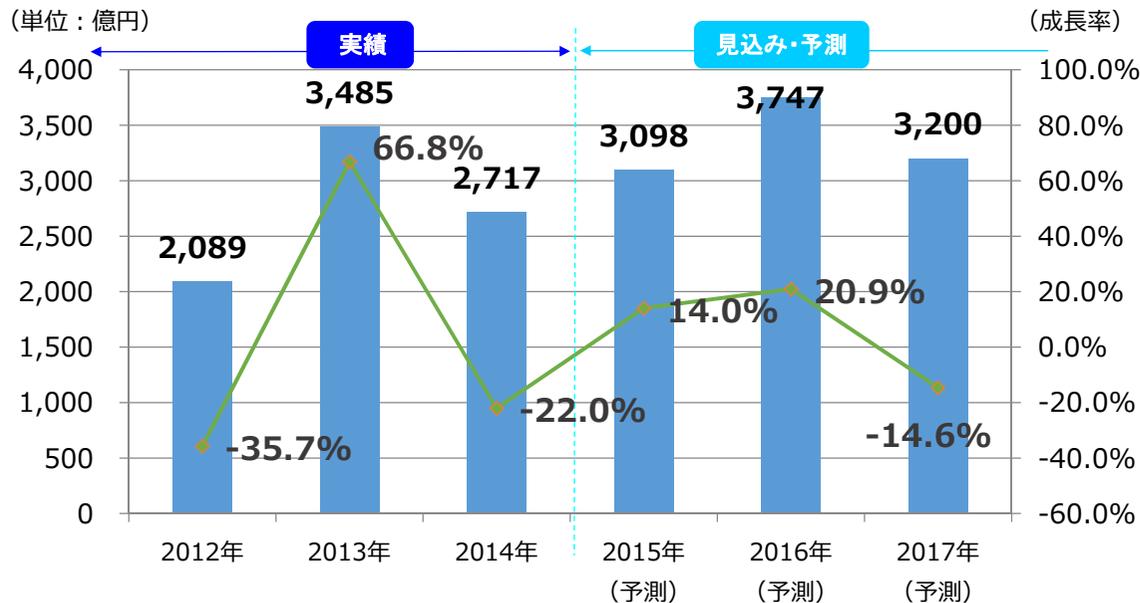
### 半導体製造装置の販売高と成長率



### 半導体・FPD関連市場

- 2016年以降  
先送りされた半導体生産の投資が再開し、設備投資が増加見込み。
- 当社の見込み  
半導体製造装置は堅調に推移し、FPD関連は国内外から受注継続の見込み。

### FPD製造装置の販売高と成長率

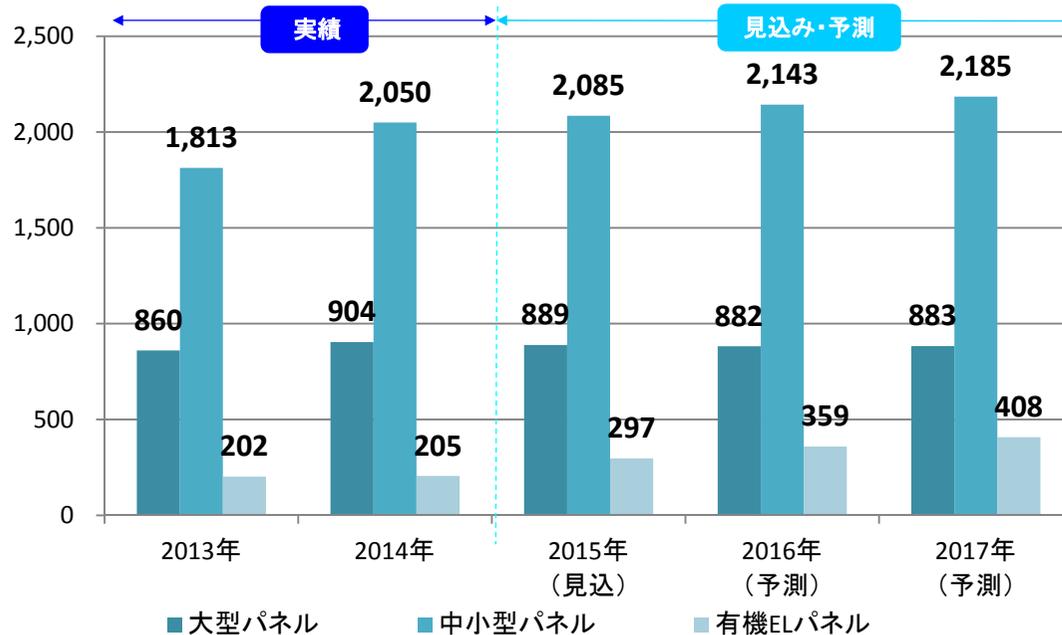


出所 2016年1月発表 半導体・FPD製造装置 需要予測(2015年度～2017年度)  
SEAJ 一般社団法人日本半導体製造装置協会

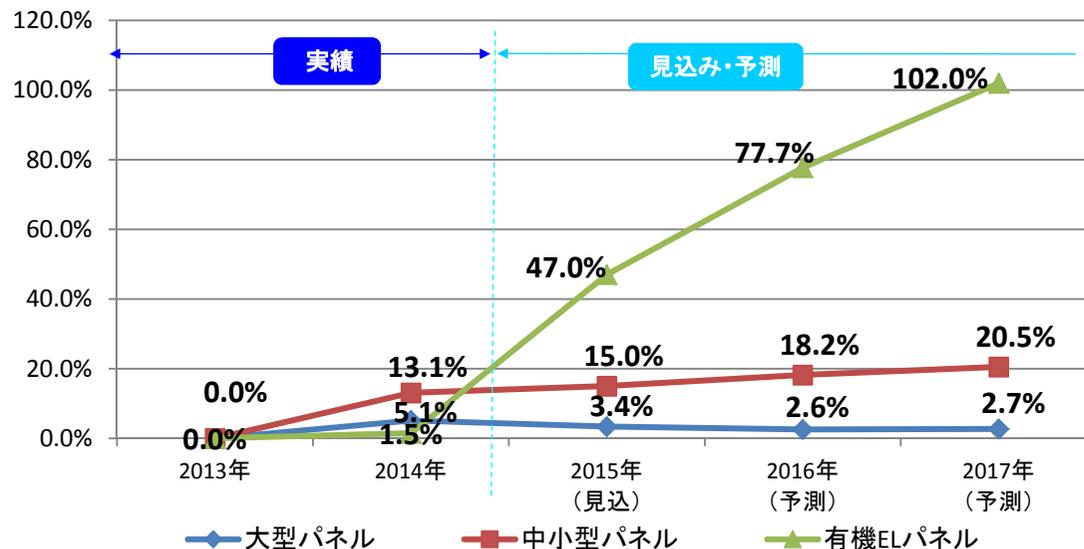
## Ⅱ 市場動向および2017年3月期業績の見通し

### 有機EL、液晶パネルのユニット製品・部品市場規模推移・予測

(単位：100万ユニット)



### 有機EL、液晶パネルのユニット製品・部品 対2013年比 成長率



### 有機EL・液晶パネル関連市場

#### ■ 2016年以降

パソコンの需要鈍化を背景に大型パネルは横ばいとなり、中小型パネルは微増、有機ELは急増の見込み。

#### ● 当社の見込み

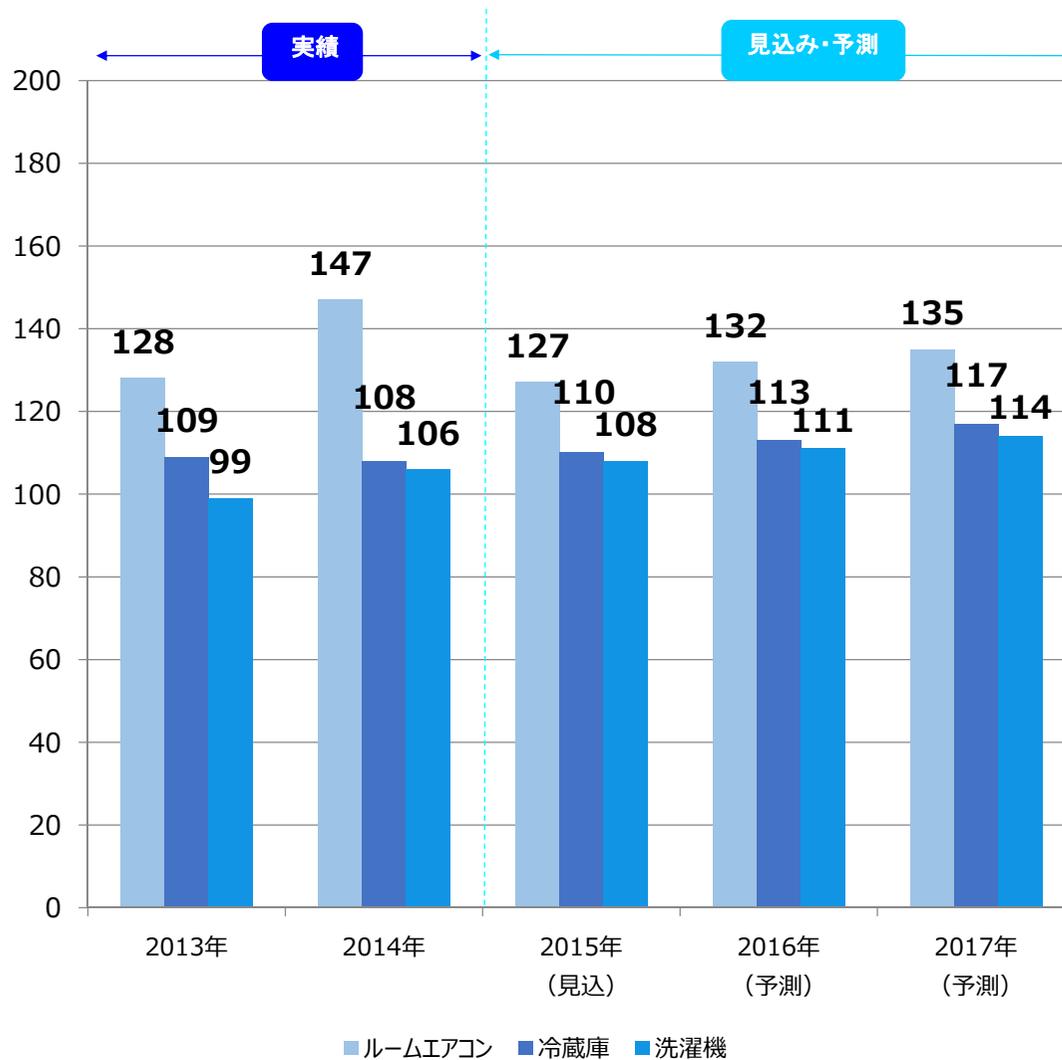
次世代ディスプレイとなる有機ELの製造工程に係る真空チャンバーの製造受託などが好調を維持。

出所 2015 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査  
株式会社富士キメラ総研

## 家電製品市場予測

## 家電市場

(単位：百万台)



### ■ 2016年以降

中国経済の減速懸念や米国の利上げなどの不安要素の中で、家電業界の再編の動きが継続。

当社の主要な顧客である英国の家電メーカーは、2015年度に記録的な業績を計上し、さらなる設備投資の見込み。

### ● 当社の見込み

掃除機関連は受注継続、タイヤ生産における搬送設備や各種機器の生産設備は、受注鈍化の見込み。

出所 2015 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査  
株式会社富士キメラ総研

	2016年3月期実績		2017年3月期予想	
<b>売上高</b>	53,048		<b>60,000</b>	
自動車関連	16,065		<b>20,000</b>	
半導体関連	16,014		<b>20,000</b>	
家電関連およびその他	16,000		<b>15,000</b>	
その他	4,968		<b>5,000</b>	
<b>営業利益 (率)</b>	2,924	(5.5%)	<b>3,500</b>	<b>(5.8%)</b>
<b>経常利益 (率)</b>	2,825	(5.3%)	<b>3,500</b>	<b>(5.8%)</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益 (率)</b>	1,713	(3.2%)	<b>2,300</b>	<b>(3.8%)</b>

### 事業計画達成のための施策

過去最高となった前期の売上高を上回る予想であり、特に大幅な増収が見込まれる自動車関連、半導体関連については効率的な社内リソースの活用と一部外注対応により確実に達成する。尚、増築する工場は10月完成予定であり、大幅な増加を見込む有機ELの製造受託案件の生産に対応する。

### 配当方針

- 内部留保を確保しながら、安定配当を継続することを基本とする。
- 経營業績に応じた弾力的な配当も肝要と考え、業績・経営環境および財政状況を総合的に勘案して決定する。

### 1株あたり配当金・配当性向 推移

(単位：円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期予想
1株あたり配当金	12.50	12.50	15.00	30.00	<b>30.00</b>
配当性向 (%)	46.1	15.5	16.4	17.5	<b>13.1</b>

※配当性向は連結ベース。

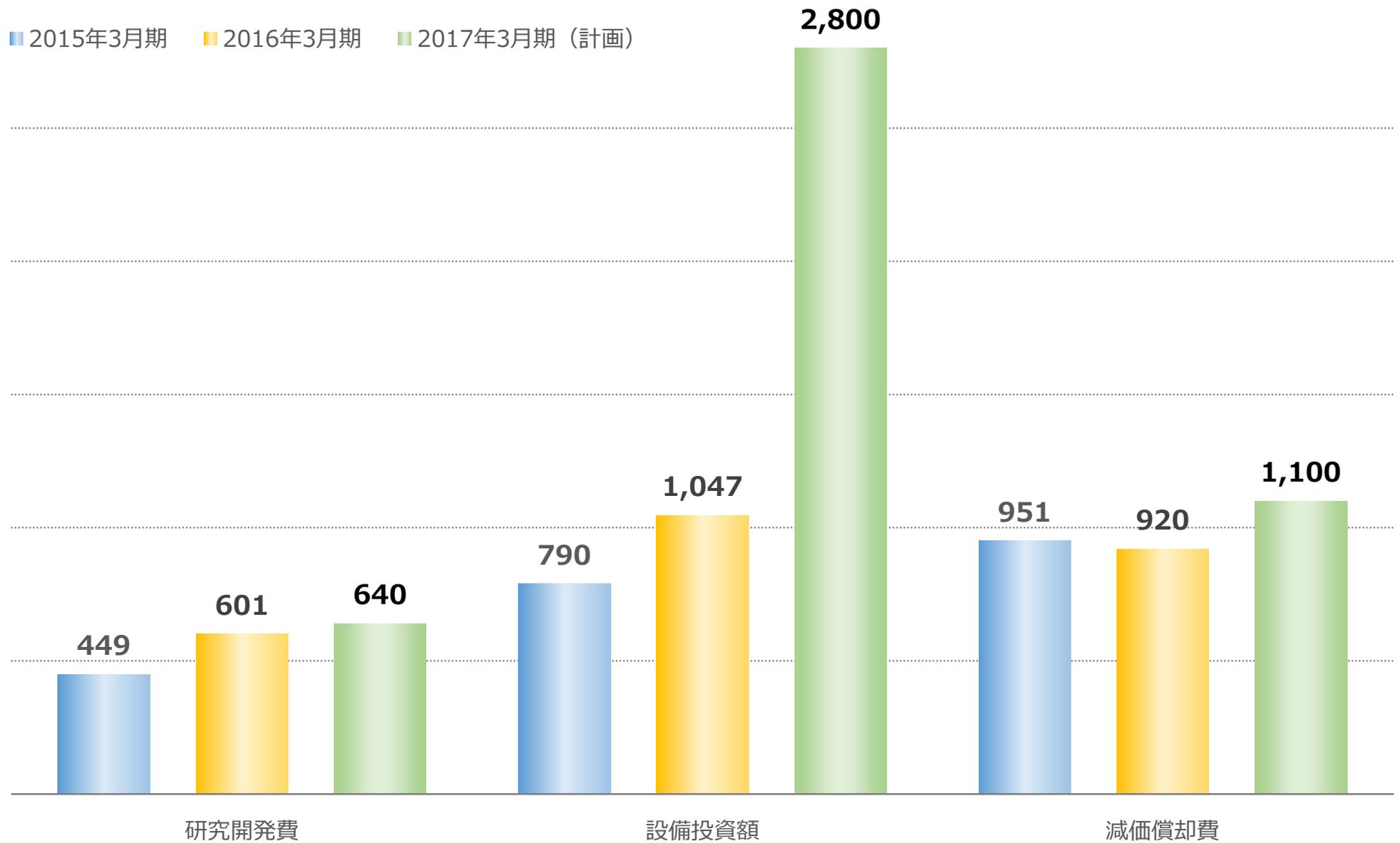
# Ⅲ 参考資料

2016年3月期 (2016年5月12日)

**Hirata**

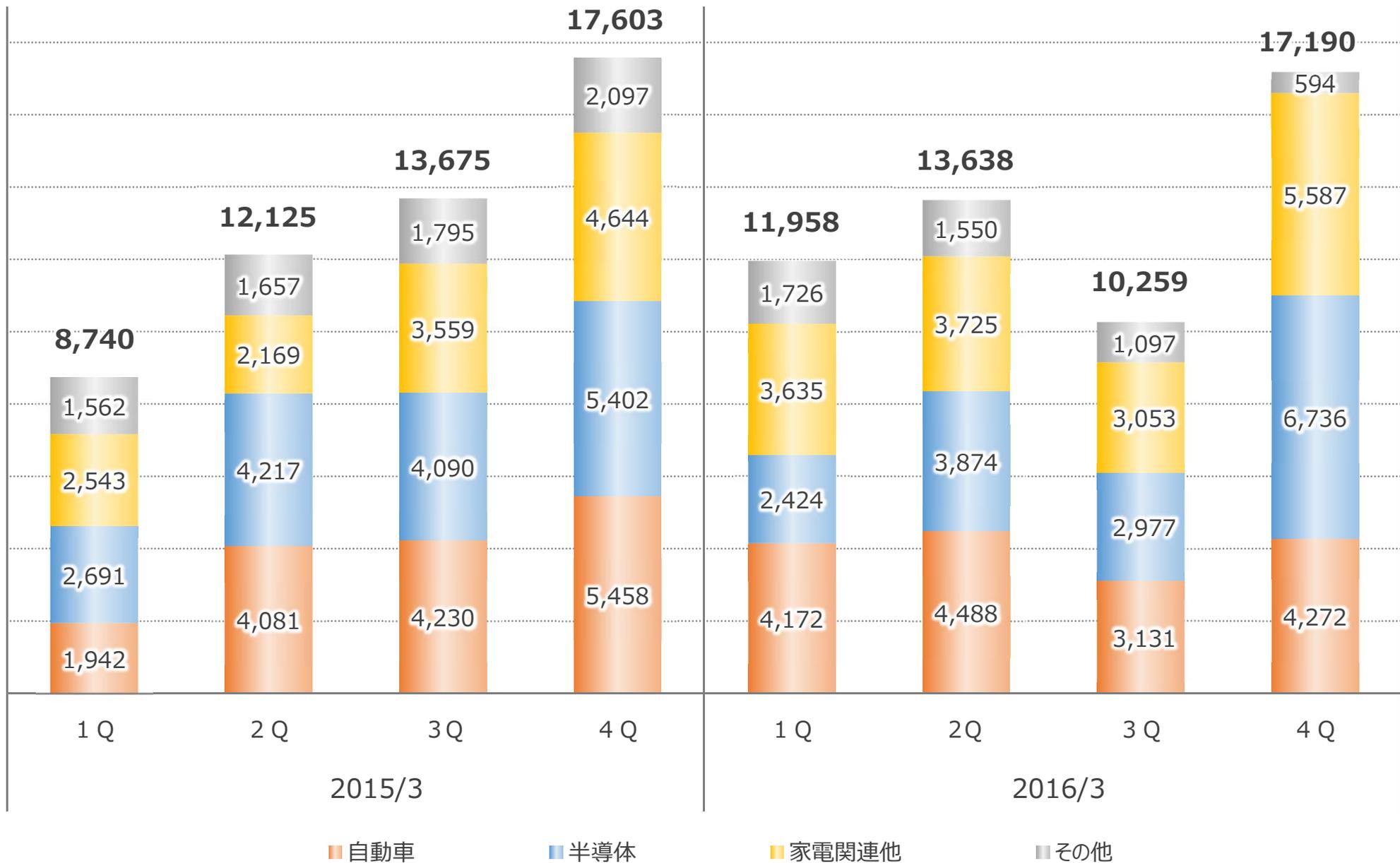


(単位：百万円)



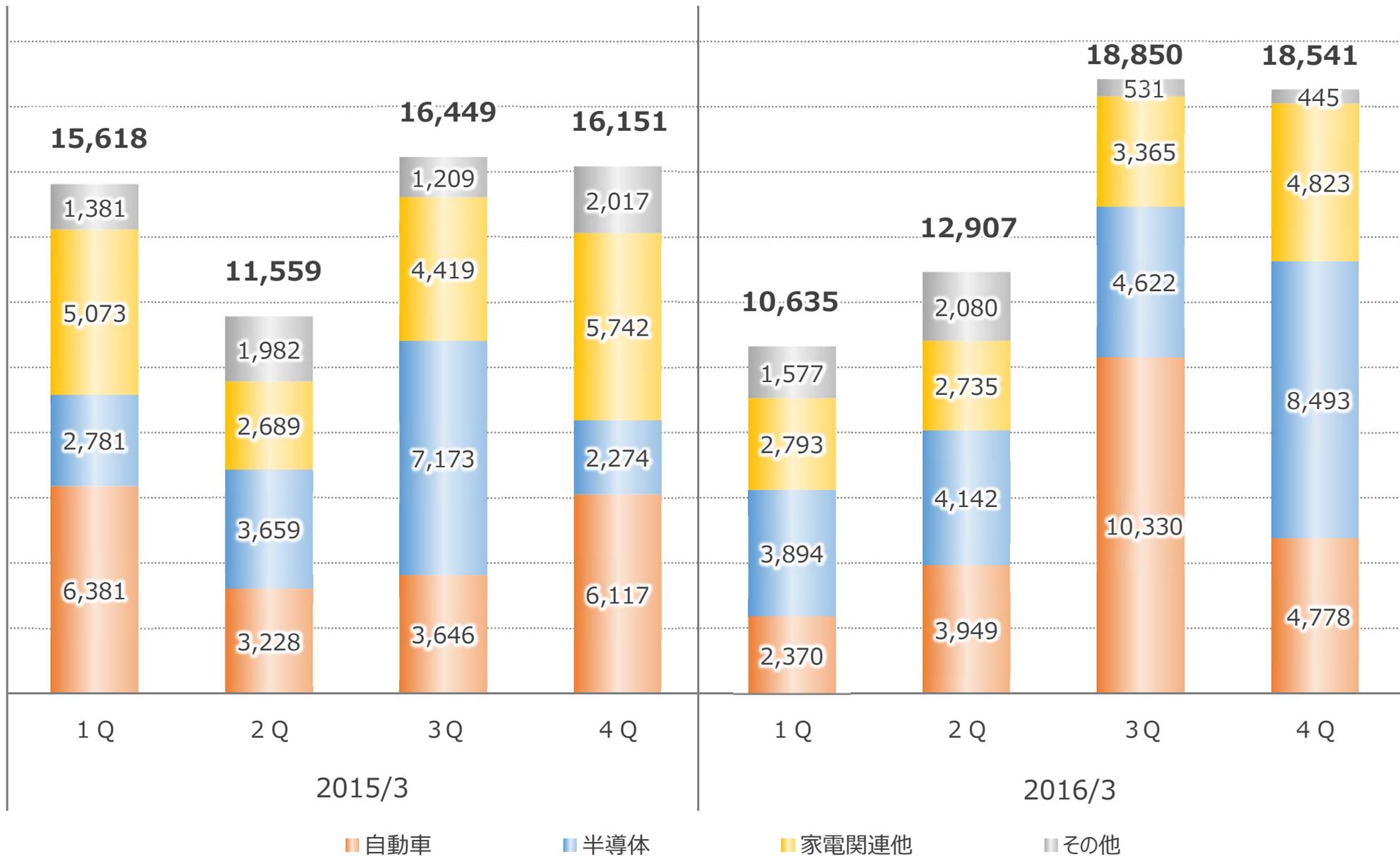
## 事業部門別四半期売上高の推移

(単位：百万円)



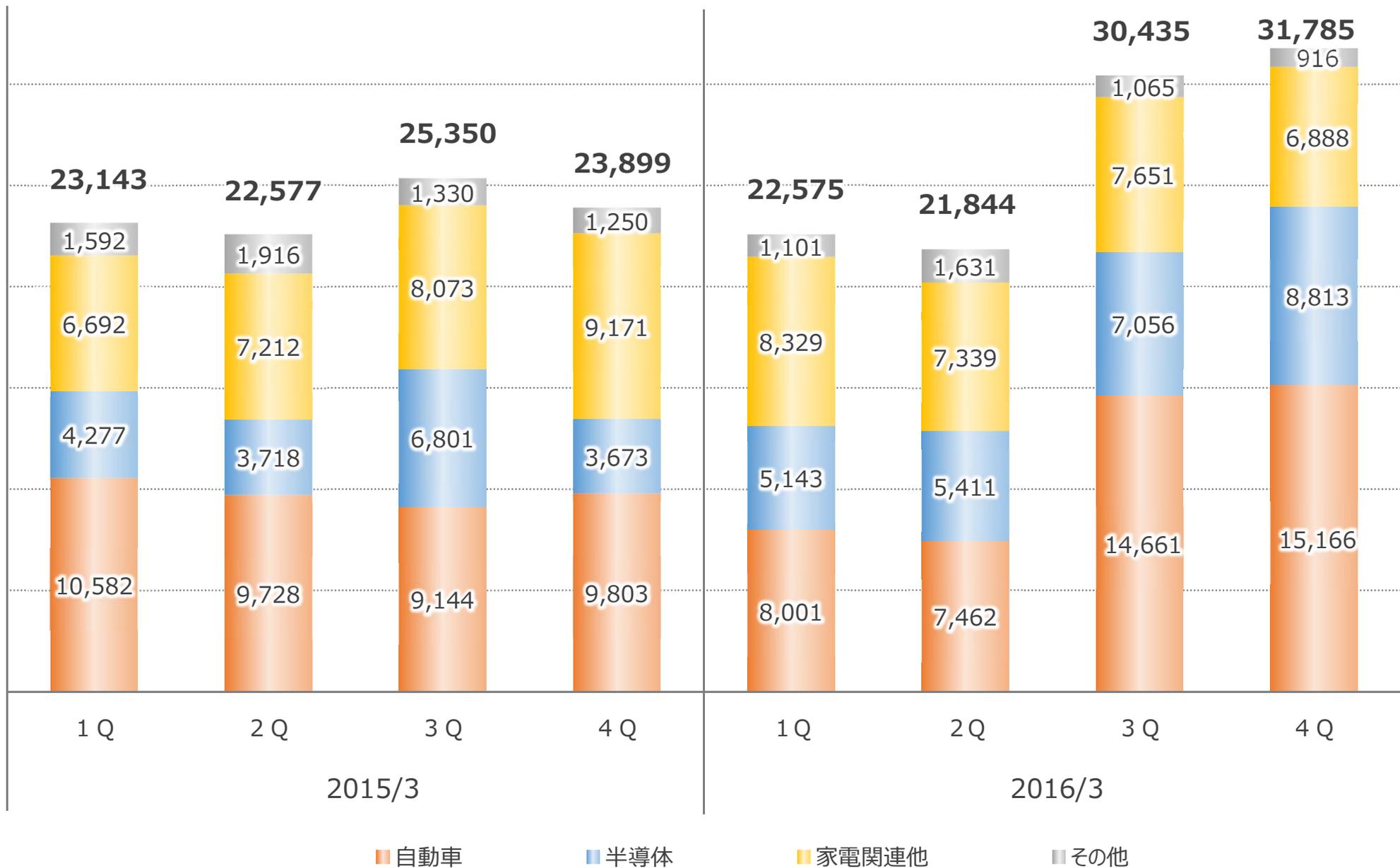
## 事業部門別四半期受注高の推移

(単位：百万円)



## 事業部門別四半期受注残高の推移

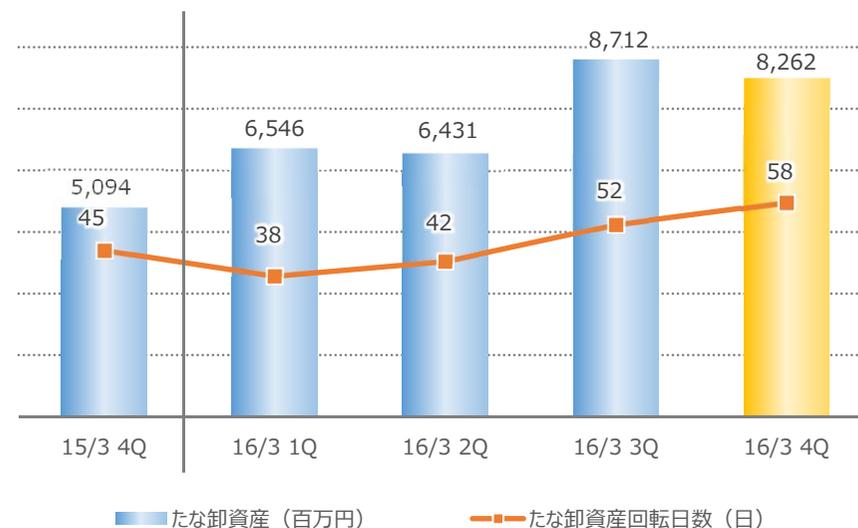
(単位：百万円)



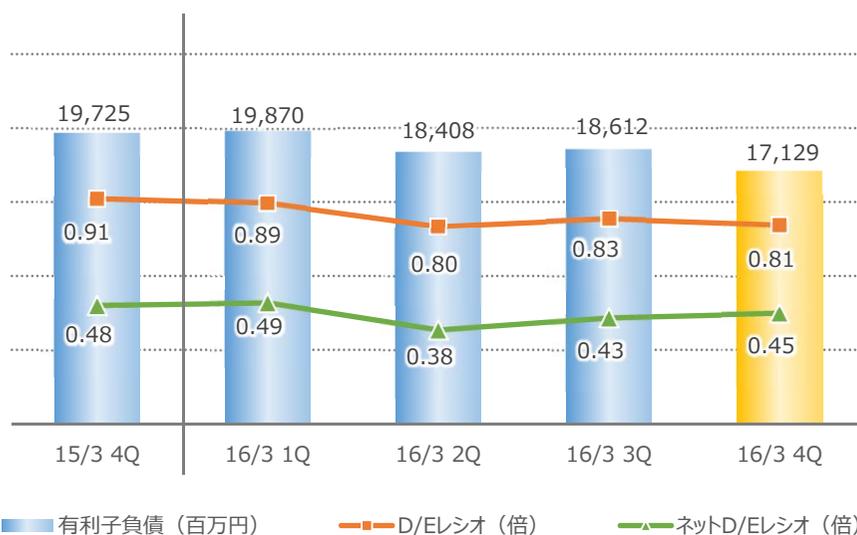
## 売上債権・売上債権回転日数



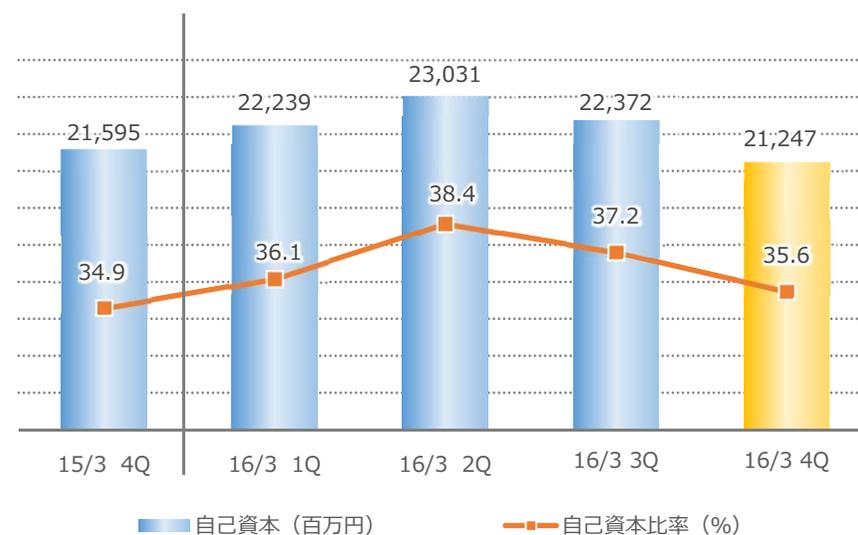
## たな卸資産・たな卸資産回転日数



## 有利子負債残高・D/レシオ・Net D/レシオ



## 自己資本・自己資本比率



【注】売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、各四半期毎の期中平均値にて算出しております。

## ご注意

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。